



mitsui e&s

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

Engineering & Services for Evolution & Sustainability



持続可能な社会の実現に向けて、 エンジニアリングとサービスで貢献。

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

1917年、旧三井物産株式会社造船部として創業した当社は、以来、100年以上にわたりマリン領域をはじめとする多彩な事業を展開。そして2023年4月、2018年からの純粋持株会社体制を解消し、事業持株会社体制の「三井E&S」として再スタートしました。

新たな商号「三井E&S」の「E」と「S」には、私たちの存在意義（パーパス）として「Engineering & Services for Evolution & Sustainability」の意味を込めました。私たちが目指すのは、脱炭素や人口縮小社会といった社会課題と向き合い、持続可能な社会の実現に向けて、エンジニアリングとサービスで貢献していくこと。

目指す姿への道筋、成長戦略の柱として、中核事業である船用推進事業・港湾物流事業におけるクリーンな新燃料対応製品の開発・市場投入などの「グリーン戦略」、デジタルトランスフォーメーション（DX）による保守・保全サービス強化や港湾クレーンの遠隔操作・自動化などの「デジタル戦略」で新たな価値を創造します。

船用エンジン、港湾クレーンのトップシェアを持つメーカーとしてだけでなく、「ものづくり」の枠を超え、周辺ビジネスまで手掛ける「エンジニアリングサプライヤー」の役割を果たしていきます。

私たちの技術リソースで社会課題にどんなサービス、ソリューションを提供できるか。常にマーケットインの観点で取り組み、社会になくってはならない存在であり続けます。新生・三井E&Sグループにどうぞご期待ください。

株式会社三井E&S 代表取締役社長 CEO

高橋岳之

企業理念

エンジニアリングとサービスを通じて、
人に信頼され、社会に貢献します

ビジョン（目指す姿）

2030年までに、マリンの領域を軸に、
脱炭素社会の実現と、
人口縮小社会の課題解決を目指します

経営姿勢

新しい価値の創造を顧客と共に実現します
健全な財務体質と堅実な利益を追求します
サステナビリティの課題解決を推進します

行動規準

シンプル、ユニーク、プラクティカルな
製品やサービスに挑戦します



トップシェア製品の脱炭素化で、地球環境を守る。

持続可能な社会のために、海からできることは何か。

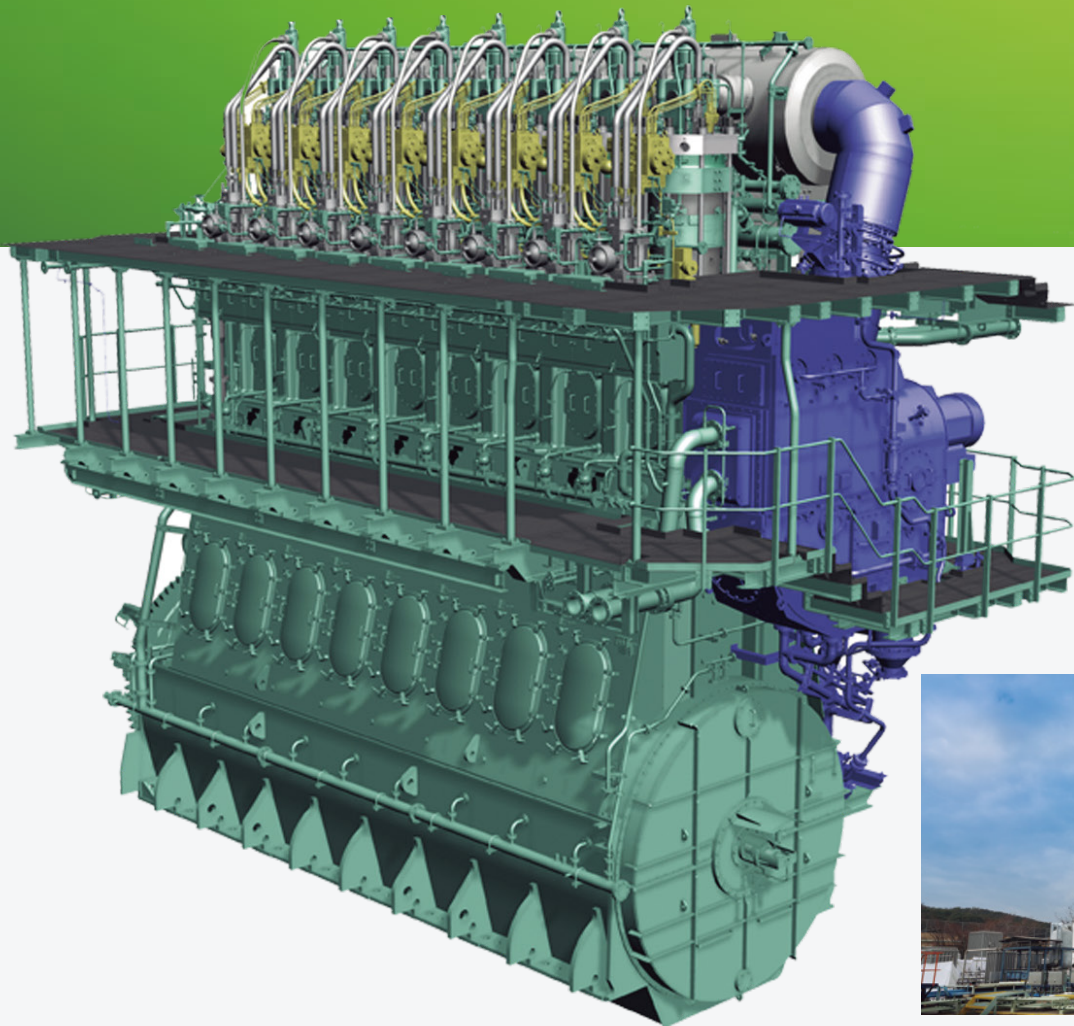
マリン領域のトップランナーである当社は、その使命を強く意識し、脱炭素社会の実現に向けたエンジニアリング&サービスを提供します。

主要トピックス

- ▶ アンモニア燃料船の基本設計承認を取得
- ▶ 株式会社IHI原動機の大規模エンジン及びその付随製品等に関する事業を譲受
- ▶ ニアゼロエミッション型トランステーナを商用化・納品

船用推進システム

1928年のディーゼル機関1号機製造以来、船用エンジンメーカーの国内トップランナーとして90年以上の実績を重ね、リーディングメーカーであり続けています。また、海上輸送のカーボンニュートラル実現に向けて期待されるLNG、メタノール、アンモニア、水素など、新燃料の可能性に全方位で取り組み、船用エンジンおよび燃料タンクや燃料供給システムも含めた総合的なエンジニアリングサプライヤーとして、技術開発を進めています。



LNG燃料ガス供給システム (FGSS)

港湾クレーン

世界初のコンテナ専用クレーンを製造したPACECO®社との技術提携を機に、日本初のコンテナクレーンを1967年に製造。以来、当社は圧倒的な知名度とシェアを獲得してきました。近年は、コンテナ荷役時に発生する回生エネルギーを再利用するハイブリッド・ニアゼロエミッション型クレーンを開発。さらに水素燃料電池への換装によるゼロエミッション化を可能にし、脱炭素化へ向けた技術革新を加速しています。



トランステーナ® (コンテナ用ヤードクレーン)



ポーテーナ® (コンテナ用岸壁クレーン)

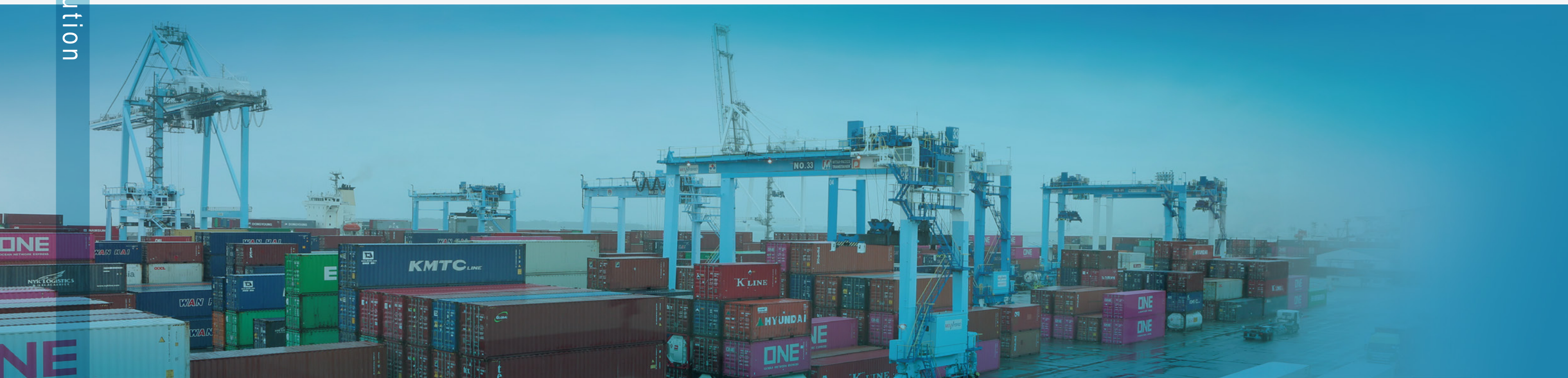
海上輸送と港湾物流を、より安全に、効率的に。

ますます重要性が高まる海上輸送と港湾物流。

その一方で人口縮小社会における労働者不足の社会課題に対して、デジタルテクノロジーを駆使したソリューションを提供していきます。

主要トピックス

- ▶ 遠隔操作トランスレーナを納入
- ▶ 遠隔操作トランスレーナへのローカル5G通信適用に向け試験実施
- ▶ 自動飛行・撮影ドローンによる遠隔間接目視点検技術を確立



遠隔操作・自動運転港湾クレーン

少子高齢化を背景とする労働力不足の課題解決のため、港湾クレーンの遠隔操作・自動運転技術を提供。コンテナ荷役の効率化と安全性向上に貢献しています。



遠隔自動トランスレーナ用操作卓

e-GICS Advance

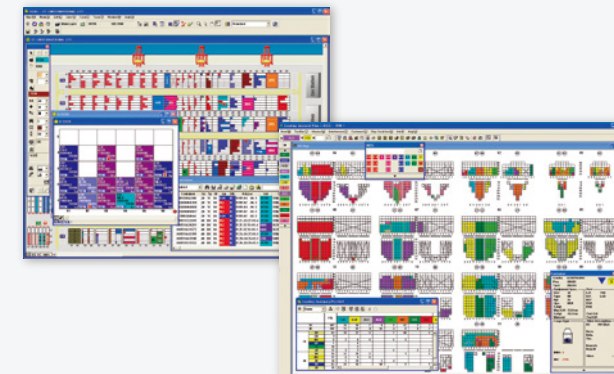
船用エンジンから運転データを採取し、陸上の当社e-GICSデータベースにおける性能診断および燃焼診断まで自動で実施。異常の兆候を初期段階で把握することで、トラブルを最小限に留め、安全運航を支えます。



e-GICS Advance 異常度スコアトレンド(例)

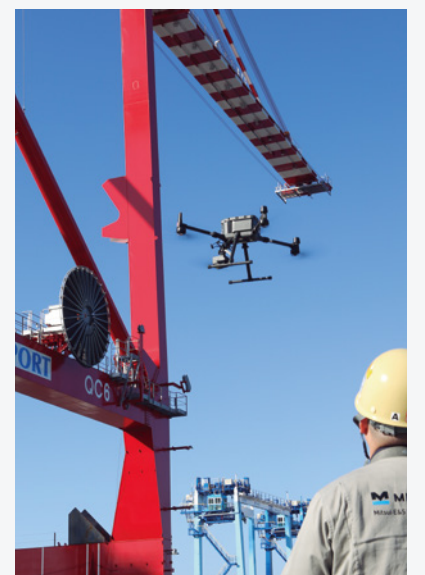
CTMS (コンテナ・ターミナル・マネジメント・システム)

円滑なコンテナターミナル運営を実現するトータルパッケージシステムを、1973年より国内外に数多く導入。日本初の自動化ターミナル用CTMSも導入実績があり、港湾全体の物流・エネルギー等最適運用への貢献を目指します。



クレーンのドローン飛行点検

港湾クレーンの点検を、従来の目視から自動のドローン飛行・画像撮影に置き換えて、点検作業の効率化を実現する技術開発を進めています。港湾クレーンの次世代遠隔モニタリングシステム「CARMS」とも連携し、港湾クレーンの効率的な運用に寄与します。



ドローンによるクレーンの点検作業